

「救急マニュアル 救急初療から救命処置まで」第2版

川崎医科大学教授・救急医学 I 小 濱 啓 次 編著
同・救命救急センター部長

日本医科大学教授・救命医学

大 塚 敏 文

わが国の救急医療体制は 1977 年厚生省が「救急医療対策事業実施要綱」を打ち出して以来、初期、二次、三次救急医療体制が急速に進み、救急告示医療機関制度と共に次第に充実してきた。全国各地に救急医療施設は整備され、今や施設数よりその中で行われる医療の質を問われる時代に突入してきている。

一方、それらの救急医療施設に勤務し、日夜救急患者に接し治療を行っている医師たちの多くは系統的な救急医学の講義は受けておらず、患者を前にして戸惑いを感じられることも少なからずあろうと思う。

今般、川崎医科大学救急医学講座小濱啓次教授が編著者となり「救急マニュアル—救急初療から救命処置まで」の第2版が出版された。

改訂の序に“本書は初版来、従来

の救急に関する書物の概念に捉われず、救急疾患を救急医学、すなわちに救急疾患の診断・治療を述べるだけでなく、常にその病態を考え、新しい視点から診断法・治療法を考え、全体として一冊の本にまとめていくということを編集の基本としてきた”と小濱教授が述べておられるごとく、すべての救急疾患に対し、まず病態を明らかにし、そのうえに必要な救急処置の解説を行い、読者に理解と納得をさせるという構成になっており、実践的な解説書といえる。

また、小濱教授の救急医療は初期から三次までの自論を随所に加え、救急医療のプライマリ・ケアから高度の救命救急まで、まさに副題の通りに記載されている。このことは救急医療に手を染めたばかりの初心者

から重篤な救急患者の治療に当たる、いわば救急専門医にまで幅広くお読みいただくことのできる優れたテキストブックともいえる。

執筆者は川崎医科大学救急医学教室の方々をはじめ、日夜救急患者に接し、自ら診療・治療を行っている医師たちの手で書かれており、読者の側に立って細かな知識まで吸収できるように配慮してある。文章は平易で読みやすく、救急医療に携わる方々や研修医はぜひ1冊本書を座右に置き、参考にしていただきたいものである。また、これから救急医療を志す若き医師たちにも一読して貰いたい解説書である。

● B5 948 頁 図 479 写真 108
原色図 34 1991 定価 16,480 円
(税込) 〒400 円

—医学書院 刊 (☎ 03-3817-5657)